



(題字 高田 昂 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局 〒144-8535 大田区西蒲田 5-23-22 (<http://jsokant.umin.jp/>)

東京工科大学医療保健学部産業保健実践研究センター内 発行責任者／五十嵐千代 jsok_kanto@sanei.or.jp



岡山後楽園

第97回日本産業衛生学会(真鍋憲幸企画運営委員長、事務局岡山大)は、2024年5月広島国際会議場にて開催される。

写真提供:能川和浩

関東地方会長就任のご挨拶

五十嵐千代 (日本産業衛生学会 理事・関東地方会長 東京工科大 教授)



日本産業衛生学会は約9,000人の会員からなる学会で、産業保健分野で最大の規模を誇ります。その中で、関東地方会は約4,000人規模と最大のブロックです。本学会は、様々なバックグラウンドをもつ多職種から構成される学際団体です。まさに、チームで進める産業保健を表しています。

産業保健は働く人の健康と安全を支える分野です。現在、労働現場は速いスピードで大きく変化しています。少子高齢化から減少する労働力を補うために、多様な労働者による多様な働き方が進んでいます。従来の「一斉に定時間、同じ場所で働く」という形態から、「自由な時間にいろいろな場所で働く」ことができるようになりました。また、AIやDXの台

頭も目覚ましく、それらと人との融合も課題になっています。

このような状況から、産業保健は社会情勢やニーズを見極めながら極めて柔軟な対応が求められる時代になりました。

一方、労働安全衛生法は施行から50年を過ぎましたが、労働者数50人未満の事業場の労働者など、産業保健サービスが届いていない人も多く存在し、この法律ですべての働く人の安全衛生をカバーできていない現状があります。

日本産業衛生学会関東地方会では、これらの課題に対して、会員の英知を結集して、社会へのメッセージを発信できるよう、地方会を活発に研究発表や意見交換を進める場にしたいと思います。また、会員間のネットワークづくりも推進してまいります。関東地方会会員の皆様の活動の拠りどころになるような地方会を運営してまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

特集記事 第96回日本産業衛生学会 開催報告



企画運営委員長
諏訪園 靖(千葉大)

第96回日本産業衛生学会は、2023年5月10日(水)から12日(金)の3日間は現地・ライブ配信で、6月1日(木)から6月26日(月)

までオンデマンド配信で開催されました。現地会場は昨年開場したばかりの「ライトキューブ宇都宮」で、宇都宮駅から直結で徒歩約2分とアクセスが良く、各会場をこの施設にまとめることができました。ライブ・オンデマンド配信についても、スマートフォンアプリ・ウェブシステムで対応し、快適にご参加できたものと思います。

学会テーマは「強くしなやかな産業保健をめざして」といたしました。現在、情報社会の進化と普及が進み、さらに、この度の新型コロナウイルスの流行もあり、テレワークが一気に普及し、あらゆる場所での労働提供が現実のものとなりました。感染症への対策なども大きく変わりました。これら産業保健活動の現場における様々な課題に向き合い、しなやかに受け止めながら、さらに産業保健を推し進めていく強さについて、今回の学会で議論を深められたらとの思いでした。

特別講演は、ヘルシンキ大のKari Reijula先生より「Occupational health in Finland - services and training」、ILOの川上 剛先生より「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言－産業保健における意義とグローバルな課題－」、日本医師会長の松本吉郎先生より、「産業医と医師の働き方改革について～日本医師会の立場から～」としてご講演いただきました。そのほか教育講演12題、メインシンポジウム3件、シンポジウム20件、部会・委員会フォーラム5件、International Session、地域交流集会(市民公開講座)などが開催されました。一般演題はオンラインライブ発表が156演題、オンデマンド発表が275演題の計431演題でした。

多くの会場で有意義な研究報告と活発なディスカッションがなされました。演者、座長の皆様には心より感謝いたします。参加者は、現地参加が約

2,000人、ウェブ参加が約1,900人でした。感染症対策のため現地参加は会場の収容人数限りとなり、申し訳ございませんでした。また、共催セミナーには13社、企業展示65社、広告、寄付等には31社の企業の皆様にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

おわりに、第96回学会の各委員会・事務局の皆様、そして理事会、関東地方会幹事会、そして会員の皆様のご協力により、この学会が無事開催できたことを心より感謝いたします。

企画運営副委員長を担当して



東川麻子
(OHコンシェルジュ)

第96回は新型コロナウイルス流行の中で準備をスタートさせ、従来の形を踏襲するのではなく、新しい形を検討することが求められました。昨年、一昨年の大会で

は新型コロナウイルス流行によって、予定していた内容を急遽変更しなければならなくなった運営担当の皆様のご苦労は如何ほどであったかと改めて感じるとともに、新型コロナウイルスの流行がその後どうなるのか予測しにくい状態下での準備も迷い悩むことが多々ありました。結果的に新型コロナウイルスの位置づけが2類から5類に移行したタイミングとなりましたが、このような問題は、産業保健の現場で様々なシチュエーションを想定し、対策を検討することに通じるところがあり、これも産業保健の大切な経験の一つと感じています。

これまで幾度となく参加してきた学会ですが、プログラムの内容はもちろんのこと、会場に集うこと、直接顔を合わせて情報交換する場の大切さを改めて実感することとなりました。準備段階では開催を迷った懇親会も、多くの方が会場で楽しく交流される姿を拝見し、開催に漕ぎつけた甲斐があったと感慨深いものがありました。

また大会の準備を通し、この第96回の大会開催を行うためだけでなく、学会員や大会参加者はどのような方で構成され、その方々のために何をすべ

きなのか、そもそも学会とはどうあるべきなのかなど、改めて考え直すことにつながりました。ご助言をいただき、一緒に検討を重ねていただいた関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

私が次回以降の学会に参加した際、大会の見方が大きく変わることは必至。これまで以上にますます学会参加が楽しみです。

最後になりますが、ご協力いただいた関係者の皆様、ご参加いただいた多くの皆様にこの場をかりてお礼申し上げます。

事務局長を担当して

能川和浩(千葉大)

2020年夏頃から第96回学会の企画が動き始めた。当時は、COVID-19による1回目の緊急事態宣言(2020年4月7日から2020年5月25日)が発出されたあとであり、先が何も見えない中でのスタートであった。

2023年5月に感染症法上の位置づけが5類感染症に移行していく中で、会場定員を大幅に上回る会場参加申込をいただき、受付を早々に締め切る事態となった。会場での参加希望に応えられなかったことについて、深くお詫び申し上げます。

事務局としては、企画・運営に係る調整業務をメインに担当した。企画においては、産業保健が取り扱うテーマがますます幅広くなっている中で、会期中になるべく多くのプログラムを実施できるように計画した。その分、プログラムの配置に微妙な調整が必要となったが、企画者の先生方にご協力をいただき完成した。調整は大変であるが、並列して多くのプログラムを実施することが可能になったのも、オンデマンド配信の利点であると考えている。

運営においては、手際の悪さから関係者にご迷惑をおかけしたが、関東地方会役員の先生方を中心にご支援をいただいた。また、多くのボランティアに会場での受付、クローク、プログラム進行等において活躍いただいた。心より御礼申し上げます。私はいままで学会におけるボランティアの活躍について認識しておらず、今後、機会があった際には私自身も積極的に関与していきたいと感じた。

会場における感染対策としては、宮本俊明先生のアドバイスのもと、消毒薬の設置や体温測定器の設置のほか、懇親会会場を屋内と屋外を自由に行き来できる配置として密にならないように配慮した。また、新しい会場のため各会場に自動換気のシステムが備え付けられていた。

本学会は事務局がある千葉ではなく栃木での開催となったが、栃木労働局、栃木県医師会、栃木県歯科医師会、宇都宮市医師会をはじめとした多くの栃木県内の団体にあたたかく迎えていただき、ご支援を賜りました。この場をかりて御礼申し上げます。



学会会場入口



総会での森理事長挨拶



受賞式(学会賞 堤先生)



特別講演 1 Kari Reijula 先生



特別講演 2 川上先生



特別講演 3 松本先生



次期学会長 真鍋先生



メイン会場の様子



優秀演題表彰式



優秀演題表彰式



懇親会会場(屋外)



小橋

塚田



関東地方会第 300 回例会(シンポジウム 15)



事務局から：
学会期間中は晴天に恵まれ、学会日和となりました。皆様ご参加いただきありがとうございました！

日本産業衛生学会学会賞 受賞の声

堤 明純(北里大)



このたび、日本産業衛生学会学会賞を受賞しました。関東地方会の一員として、たいへん光栄に思うとともに、これまで仕事をご一緒させていただいた共同研究者、実務者、学会関係各位、そ

して、研究に参加いただいた皆様に、心から感謝いたします。

受賞対象研究業績は、「職場の心理社会的要因が労働者に与える健康影響の評価と、組織的な職場メンタルヘルスに関する一次予防対策介入による精神的健康度向上の検証を行った観察研究および介入研究」でした。現代の仕事のストレス研究の標準的なアプローチとなった職業性ストレスモデルを用いた研究は、1980年代にその嚆矢が見られません。私が産業保健の分野で仕事を始めたのが、新しい職業性ストレスモデルも含めて、それらの研究成果が発表され始めていた時期でした。その頃から多くの方々のご支援をいただきながら、研究活動を続けてまいりました。

職業性ストレスモデルについての科学的な根拠は蓄積しています。このモデルが将来のメンタルヘルス不調を予測するという観察研究や、これらを利用して測定した結果を基にした介入研究などがあります。職業性ストレスモデルは、多くの職業に汎用性があり、測定結果を評価して職場の改善を行うことはたいへん理論的でもあります。現在行われているストレスチェック制度は、この応用と言えますが、批判もあるように、職場改善までは現場ではなかなか浸透していません。

今後は、これまでの知見を、より現場に活かせるような実装研究が必要です。これらは、研究者と現場の方々の協力がなければ実施できません。職場のメンタルヘルス対策のさらなる向上のために、これからも関東地方会の一員として尽力できればと考えています。

日本産業衛生学会奨励賞 受賞の声

豊岡達士(安衛研)



この度は栄誉ある産業衛生学会奨励賞をいただき大変光栄に思うと同時に、改めて身が引き締まる思いである。2015年に労働安全衛生総合研究所に入所し、労働衛生分野の研究に取り組み

始め8年目となったが、この間、研究所内外で実施してきた労働衛生研究、及び各種関連委員会等においてご指導ご鞭撻ならびに、今回の奨励賞にご推薦いただいた大前和幸先生、甲田茂樹先生に深く感謝申し上げる次第である。

受賞理由となった研究は、 γ H2AXによる産業化学物質のDNA損傷性評価、及び、三次元ヒト培養皮膚を用いた皮膚吸収性等の評価に関するものであり、以下に、簡単に紹介する。 γ H2AXは、リン酸化ヒストンH2AXのことであり、細胞DNAに切断が生じた際に、コアヒストンを構成するH2AXがリン酸化するという事象に着目したDNA損傷マーカーである。 γ H2AXを指標とした評価法は検出できるDNA損傷型の幅が広いこと、高感度であること、ハイスループット化が可能といった利点がある。私は γ H2AXを指標に、DNA損傷性の有無が不明、若しくは曖昧だった種々の産業化学物質のDNA損傷性を明らかにすると共に、その損傷誘導メカニズムを解明してきた。また、産業化学物質の皮膚吸収性等の評価に関する研究では、三次元ヒト培養皮膚を初めて労働衛生分野の研究に応用し、産業化学物質の皮膚吸収性等は、いくつかのパターン分類ができ、このパターン分類には、物質のオクタノール水分配係数が強く影響すること等を明らかにしてきた。この研究で培った知見は、2024年4月に施行される安衛則594条の2に規定される皮膚等障害化学物質の選定にも活かすことができた。

これらの研究は、私のライフワークになると考えている。今後も労働衛生研究の発展、労働衛生行政への貢献ができるように精一杯研究活動に取り組んでいきたいと考えている。

おめでとうございます

第96回日本産業衛生学会

学会賞

堤 明純先生
(北里大)

奨励賞

豊岡達士先生
(安衛研)

編集委員会 優秀論文賞

茂木伸之先生
(安衛研)

小川明夏先生
(エビデント)

編集委員会 優秀査読者賞

渡辺和広先生
(北里大)

学術委員会 第8回若手論文賞

齋藤順子先生
(国立がん研究センター)

渡辺和広先生
(北里大)



関東地方会例会プログラム一覧

第299回例会プログラム

当番幹事:品田佳世子(東京医歯大)

開催日:2023年2月4日(土)

会場:TKP御茶ノ水会議室 オンライン併用

テーマ:職域での歯科口腔保健を推進するために

【基調講演】

- ①職域における歯科口腔保健の推進についての概要 上條英之(東京歯大)
- ②産業保健看護部会会員の調査結果の概要から 大山 篤(神戸製鋼所)
- ③産業医の立場から 西埜植規秀(にしのうえ産業医事務所)

【事例報告】

- ①歯科衛生士として職域における 歯科口腔保健事業の取り組み 後藤理絵(ライオン)
- ②健康経営・コラボヘルスでの花王の取り組み 守谷祐子(花王)
- ③地域・職域連携ですすめる歯科口腔保健～事業場の保健師の立場から～ 帆苺なおみ(サンデン)

第300回例会プログラム

当番幹事:小橋 元(獨協医大)

開催日:2023年5月12日(金)

会場:ライトキューブ宇都宮 オンライン併用

*第96回日本産業衛生学会内で開催

テーマ:しなやかな心で繋がり輝く産業・環境・健康～栃木からの熱いメッセージ

- 1.栃木県における地域保健から職域保健への連携の推進について 塚田三夫(栃木県安足健康福祉センター)
- 2.地方銀行が地元企業との共同出資で設立した地域商社「コレトチ」における取組 美藤文人(コレトチ)
- 3.電気自動車(EV)リユースバッテリー活用による二酸化炭素排出量削減に向けた取組 山口琢也(大日光・エンジニアリング)
- 4.植物・微生物・動物、さまざまな命が紡ぐワイン 池上知恵子(ココ・ファーム・ワイナリー)
- 5.信頼・つながり・お互い様で健康づくり 岩室紳也(ヘルスプロモーション推進センター)

第299回 関東地方会例会報告



品田佳世子
(東京医歯大)

2023年2月4日(土)
13:00～、第299回関東
地方会例会および関東
産業歯科保健部会研修
会を開催した。現地参
加が約100人でオンライ

ン参加は約70人のハイブリッドで実施した。メインテーマは「職域での歯科口腔保健を推進するために」で、詳細は例会プログラムをご参照いただきたい。

上條英之先生と品田佳世子が座長の下、最初に上條先生からテーマの概説と基調講演があった。次に大山 篤先生から「産業保健看護部会会員の調査結果の概要」として、現在「厚生労働省科学研究事業:職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究」が行われており、講演では産業保健看護部会会員の皆様のご協力により実施された研究結果の一部が報告された。

次に各専門分野からのご講演が行われた。

まず産業医の立場として、西埜植規秀先生から、「歯周病と全身疾患との関連が注目され、健康寿命の延伸を図る上で歯科口腔保健の保持・増進の重要性が増している。そのため国が目標として掲げる『生涯を通じた切れ目のない歯科健診』を実現することが、就労世代における、う蝕や歯周疾患の重症化予防につながり、個々のリテラシーも高まる。それによって医療費の削減や生産性の向上も期待できる。課題としては、時間や費用の問題など、いかに受診および事後措置につながりやすい環境やしくみを職域において整備できるかといったことが課題である。」と、様々なエビデンスを挙げて講演された。

次に事例報告として、後藤理絵先生が歯科衛生士の立場から講演された。「『食べる』『話す』『笑う』など、生活する上で大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、生活者の生活の質(QOL)の向上につながるように支援している。職域での主な活動目的は、歯科口腔保健知識の向上、予防歯科の実践など、自己管理能力を向上させることである。活動の特徴は、歯科

衛生士を中心として、歯科口腔保健指導に重点をおいた活動を展開しており、健康保険組合、企業、事業所等の要望に合わせた取り組みを提供している。」とのことであった。その中で今回は、後藤先生が所属している財団で実施している唾液検査、セミナー、情報冊子提供など、職域における歯科口腔保健活動の取り組みが紹介された。

続いて守谷祐子先生からは、会社からの立場として「花王グループの健康経営®～健保と会社のコラボヘルス事例」について、歯科の取り組みも含めたコラボヘルス事例について紹介された。「2000年から福利厚生の見直しに伴い、会社の健診と健保の人間ドックの健康データの集計から従業員の健康状態の課題を見出し、それを改善するための活動を2004年にスタートした。」と話された。

最後に帆苅なおみ先生は保健師の立場として、企業・保険者、地域・市町村、県が連携を促進する推進体制があり、2009年より地域・職域連携での健康づくり活動を実施してきたこと、2017年には県と共同で社員の健康習慣調査を実施し、歯科口腔保健についての課題を共有し、事業場内で県内の歯科衛生士による歯科セミナーを実施したことなどを講演された。

各講演後、多くの聴講の方々からの質問に、演者の先生方から丁寧な回答があり、質疑応答が活発に行われた。

お忙しいなか、会場が満席になるほど多くのご参加があり、関係者を含め感謝申し上げます。



基調講演の様子

関東産業医部会報告



加藤憲忠(富士電機)

本年度の関東産業医部会研修会を下記の通り開催する予定である。今回も対面研修であり、日本医師会認定産業医制度に基づく研修単位申請を行う。内容は、「化学物質管理」「医師の過重労働対策」「騒音障害防止のためのガイドラインの改正」を取り上げた。日常の産業医活動の一助となるように企画しているので、ご参加をお待ち申し上げる。

開催概要

- 開催日時:2023年11月11日(土)午後
- 開催場所:東京慈恵会医科大学 大学2号館
6階講堂(港区西新橋3-35-8)
- 研修会内容(*仮題)
 - ①「実地に則した化学物質管理における産業医の役割」山本健也先生(安衛研)
 - ②「オキュペイショナルハイジニストから見た産業医の実務/指導/助言・課題・展望」津田洋子先生(帝京大)
 - ③「騒音障害防止のためのガイドラインの改正について」佐々木直子先生(佐々木労働衛生コンサルタント事務所)
 - ④「医師の過重労働対策—より実地に則した内容で—」中嶋義文先生(三井記念病院)
- 日本医師会認定産業医研修単位(予定)
(更新1、専門3)
- 参加募集人数:60~100名
- 参加費:
日本産業衛生学会員、東京都医師会員 4,000円
東京都以外の道府県医師会員 5,000円
上記学会・医師会の非会員 10,000円

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により開催方法に影響を受けるため、現時点で参加者募集人数、受付開始日、申込み方法は決まっておりません。決まり次第、関東地方会ホームページに掲載予定です。

関東産業保健看護部会報告



吉川悦子
(日本赤十字看護大)

第96回日本産業衛生学会(会期:2023年5月10日~5月12日)において、「次世代につながる産業保健看護職のキャリアとネットワークの形成」をテーマに、部会名変更後初となる産業保健看護部会シンポジウムを実施した。話題提供者3名はいずれも各地域において、新進気鋭で次世代を担う希望として活躍されている産業保健看護職である。

佐々木祥江先生(とちぎコープ生活協同組合)は、産業保健看護未経験でありながら社内外にネットワークを構築しつつ手探りで健康管理体制を整備した自身の実践経験を報告した。小川明夏先生(エビデント)は大学院進学や社外講座の参加に触発されながら、自らも主体的にSNS等を活用したネットワークを展開している経験について、平田真以子先生(クボタ)は、産業保健看護部会活動への参画、ロールモデルとなる先輩方との出会いによるキャリア形成とご自身のワークライフ・バランスの視点から、セルフマネジメントに努め優先順位をつけて選択することの重要性について話題提供がなされた。

最後に産業保健看護部会長の五十嵐千代先生(東京工科大)より指定発言をいただき、産業保健看護部会のミッションを実現化するための産業保健看護専門家制度設立(2016年)や産業保健看護の定義見直し(2022年)等の多様な事業のご紹介、新たな産業保健看護の時代を築くためのネットワーク構築の重要性についてお話しいただいた。

総合討論では、会場やオンライン参加者からの多くのご意見やご質問をいただき、未来志向で産業保健看護職の今後の在り方について考える機会となった。多くのご参加の皆様に御礼申し上げます。



関東産業衛生技術部会報告



齊藤宏之(安衛研)

2023年5月10日～12日に宇都宮市で開催された第96回学会において、「シンポジウム11(産業衛生技術部会シンポジウム)」、「産業衛生技術部会フォーラム」及び、産業衛生技術部会総会を開催した。

シンポジウム11では、「社内外の産業衛生技術専門家の『自律的な化学物質管理』～オキュペイショナルハイジニストから見た実務/指導/助言・課題・展望～」と題して、製造業内部担当者、学校の内部担当者、ならびに外部専門家の3人の先生方から講演をいただいた。今回、様々な場面での貴重な報告がなされ、活発な議論が行われたことにより、この分野でのオキュペイショナルハイジニストの活用が一層進むことが期待される。

産業衛生技術部会フォーラムでは、騒音障害防止研究会との共催で「これからの騒音障害予防対策について」をテーマに、5人の先生方から講演をいただいた。これは「騒音障害防止のためのガイドライン」の31年ぶりの改正を受けて行われたものである。今回の改正により、より一層の対策が期待される一方で、騒音作業の類型化が見送られたなど、必ずしも満足できる内容ではないとの意見もあり、引き続き対策を検討する必要性が示された。

総会では、中村 剛先生(東北大)、武藤 剛先生(北里大)への奨励賞の授与、ならびに当部会に多大なるご尽力をいただいた中明賢二先生への特別功労賞の授与が行われた。また、当部会に多大なる貢献をいただいた田中 茂先生が4月に亡くなられたことが報告され、黙祷を行った。

総会では、中村 剛先生(東北大)、武藤 剛先生(北里大)への奨励賞の授与、ならびに当部会に多大なるご尽力をいただいた中明賢二先生への特別功労賞の授与が行われた。また、当部会に多大なる貢献をいただいた田中 茂先生が4月に亡くなられたことが報告され、黙祷を行った。



産業衛生技術部会フォーラムにおける討論の様子

関東産業歯科保健部会報告



品田佳世子(東京医歯大)

関東産業歯科保健部会研修会は第299回関東地方会例会と合同で2023年2月4日(土)に実施した。詳細は例会報告についての記事をご参照願う。

2023年5月10日(水)～12日(金)に宇都宮にて開催された第96回日本産業衛生学会において、産業歯科保健部会関連の講演内容について記載する。

教育講演6「意外に知られていない、歯科疾患の職域での大きな負担をデータから見る」(相田 潤先生;東医歯大)は、会場参加者162人でほぼ満席となった。歯科疾患の医療費は働く世代である15～64歳では循環器疾患など主要な疾患と同等か上回っている。また、産業保健において歯科口腔保健に関する取り組みを推進することの重要性を、データを示して講演された。

産業歯科保健部会前期研修会「南極・宇宙等の特殊環境における口腔保健」(財津 崇先生;東医歯大)は会場参加者76人で、宇宙飛行士の口腔健康管理や南極観測基地の口腔保健プログラムについて実際の動画を用いて説明された。

産業歯科保健フォーラム「働く人々の多様化への対応～すべての人に口腔保健を～」(会場参加者47人)では、①外国人技能実習生・労働者の口腔保健(久篠奈苗先生;東京家政大)、②非正規雇用労働者の生活習慣と口腔保健行動(大山 篤先生;神戸製鋼所)、③お口の健康は生活支援の始まり～障害者の社会参加を促す口腔保健～(遠藤眞美先生;日大松戸)として、調査結果や現状について講演いただいた。どの講演も歯科医師、歯科衛生士のみならず産業医、産業保健看護職の多くの方々の参加が得られ、活発な質疑応答がなされた。



産業保健実践活動報告(第 45 回)



武藤 剛(北里大)

2020年2月のダイヤモンドプリンセス号から始まったわが国の新型コロナウイルス感染対策では、「3密回避/改善」という「場の管理」たる標語が筆頭に挙げられてきたのは、記憶に新しい。私たちは

この「3密」たるナイーブな用語を、「場の管理を科学的に実践する専門家チーム」として評価することを着想した。それが2020年3-5月にかけて、橋本晴男産業衛生技術部会長の音頭のもと、関東産業衛生技術部会を中心とする有志の先生方々により開発された「[換気シミュレーター](#)」である。

これは、従来より換気の指標とされる室内CO₂濃度平衡推定値を、部屋の形状・建物のカテゴリー・在室者人数・在室者身体活動の変数を投入することで簡便に算出することを可能としたものである。国内の報道で紹介されるにとどまらず、海外からも技術部会への問い合わせが相次ぎ、英語版もあわせて公開中である。

この3年間、集団で行う飲食や歌唱、ダンスといった活動をどのように安全に行うか、私たちは、飲食店・施設・学校(音楽室)はじめ様々な部屋(場)の換気量実測値を換気シミュレーターに投入することで、より正確な換気評価を試みてきた。行政(千葉県松戸市ほか)とも密接に連携し、事業者・労働者・消費者が協働して3密改善に取り組むあり方は、ポストコロナ時代に、換気と省エネ/脱炭素の両立調和をめざす方向性に活かせるであろう。



①気流評価



②換気量実測



③ 密・換気
良否判定

研究室紹介



東京歯科大学教養課程
歯科社会保障学
教授 上條英之

この分野は、2014年4月に教養課程に歯科社会保障学という教科が新設され、私が9年ほど前に厚生労働省を退官後、教授として赴任し教育研究が始まった。

教育については、1年生に対して歯科医療管理学入門について社会保障の講義を行うとともに、4年生に対し歯科医療管理学で社会保障の実習を行っている。

当分野は、設立当初、社会保障分野の調査研究が主体であったが、歯科医学の領域で産業保健に従事している研究者が少ないこと等が影響し、関係の方からの依頼を受けるようになった。2014年10月から、厚生労働省の労災疾病臨床研究事業補助金を受託し、その後も産業保健の研究を継続してきた。

本分野は、教養課程に位置付けられているため、大学院生の受入れは行っていないが、本学の衛生学講座の医局員並びに大学院の先生方との連携のもと、日本産業衛生学会産業歯科保健部会に所属する研究者の先生方の協力を得て、調査研究を進めている。

現在、厚生労働科学研究費補助金等により、「職場の歯科口腔保健を推進するための調査研究」及び「労働安全衛生法に基づく歯科医師による健康診断のより適切な実施に資する研究」を実施している。

- 本研究室の主な研究テーマは以下の通りである。
- ・歯の酸蝕症に関する有病状況と職場3管理との関連
 - ・職場での歯科口腔保健サービスの普及方策
 - ・ビッグデータによる糖尿病と歯科疾患との関わり
 - ・歯科診療報酬制度改革



通達・行政ニュース

山本健也(安衛研)

[第14次労働災害防止計画](#)

2023年度を初年度とした今後5年間の労働災害防止計画が3月27日に公示された。「事業者の安全衛生対策の促進と社会的に評価される環境の整備」という方向性の基、8つの重点対策(自発的に安全衛生対策に取り組むための意識啓発、労働者(中高年齢の女性を中心に)の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進、高年齢労働者の労働災害防止対策の推進、多様な働き方への対応や外国人労働者等の労働災害防止対策の推進、個人事業者等に対する安全衛生対策の推進、業種別の労働災害防止対策の推進、労働者の健康確保対策の推進、化学物質等による健康障害防止対策の推進)について、具体的な取り組み方法等が示されている。なお計画の目標として「アウトプット指標」及び「アウトカム指標」が新たに設定されている。

[労働者の健康障害を防止するため化学物質の濃度基準値とその適用方法など](#) (令和5年4月27日)

- ・[労働安全衛生規則第五百七十七条の二第二項の規定に基づき厚生労働大臣が定める物及び厚生労働大臣が定める濃度の基準\(厚生労働省告示第177号\)](#)
- ・[化学物質による健康障害防止のための濃度の基準の適用等に関する技術上の指針](#)
- ・[化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針の一部を改正する指針\(危険性又は有害性等の調査等に関する指針公示第4号\)](#)

新たな化学物質管理制度にかかる濃度基準値及びその適用に関する技術上の指針が公表された。濃度基準値には「八時間濃度基準値」及び「短時間濃度基準値」の2種類があり、その数値が設定されている場合のリスクアセスメント等における対応について示されている。なお、今回公表された濃度基準値67物質は令和6年4月より適用される。なおこれに合わせて「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針(化学物質リスクアセスメント指針)」も改正された。

参考:【施行通達】

- ・[労働安全衛生規則第577条の2第2項の規定に基づき厚生労働大臣が定める物及び厚生労働大臣が定める濃度の基準の適用について\(令和5年4月27日 基発0427第1号\)](#)
- ・[「化学物質による健康障害防止のための濃度の基準の適用等に関する技術上の指針」の制定について\(令和5年4月27日 基発0427第2号\)](#)
- ・[「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針の一部を改正する指針」について\(令和5年4月27日 基発0427第3号\)](#)

[防じんマスク、防毒マスク及び電動ファン付き呼吸用保護具の選択、使用等について](#) (令和5年5月25日 基発0525第3号)

濃度基準値が設定された今般の化学物質管理制度を踏まえ、化学物質リスクアセスメント指針及び技術上の指針で定めるリスク低減措置として呼吸用保護具を使用する場合に、その適切な選択、使用、保守管理等に当たって留意すべき事項が示されている。具体的には、労働者の呼吸域における物質の濃度が、保護具の使用を除くリスク低減措置を講じてもなお、当該物質の濃度基準値を超えること等、いわゆるリスクが高いと判断される場合に、有効な呼吸用保護具を選択し、労働者に適切に使用させ、事業者は呼吸用保護具かが適切に選択及び使用されているかの確認を行うこと、とされている。なお、フィットテストの実施は現在金属アーク溶接等作業に限られているが、上述の「[化学物質による健康障害防止のための濃度の基準の適用等に関する技術上の指針](#)」及び本通達により「リスクアセスメントに基づくリスク低減措置として呼吸用保護具を労働者に使用させる事業場」にその適用が拡大される。

[皮膚等障害化学物質等に該当する化学物質について](#) (令和5年7月4日 基発 0704 第1号)

安衛則第594条の2第1項が適用される皮膚等障害化学物質等のうち「皮膚から吸収され、若しくは皮膚に侵入して、健康障害を生ずるおそれがあることが明らかな化学物質」が公表された。これらは「皮膚刺激性有害物質」と「皮膚吸収性有害物質」があり、前者は、GHS分類の結果及び譲渡提供者より提供さ

れたSDS等に記載された有害性情報のうち「皮膚腐食性・刺激性」「眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性」及び「呼吸器感作性又は皮膚感作性」のいずれかで区分1に分類されている物質と定義され、後者は該当する296物質が本通達で示されている。

[労働者死傷病報告等の電子申請を原則義務化](#)

労働政策審議会に「じん肺法施行規則等の一部を改正する省令案要綱」が諮問され、同審議会から妥当である旨答申された。具体的には、監督機関への提出が義務付けられている報告文書（労働者死傷病報告、じん肺健康管理実施状況報告、総括安全衛生管理者・安全管理者・衛生管理者・産業医選任報告、定期健康診断結果報告書、有害な業務に係る歯科健康診断結果報告書、心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告書、有機溶剤等健康診断結果報告書）の報告を原則電子申請とし、また労働者死傷病報告についてはその報告内容の改正がされる。なお施行は令和7年1月が予定されている。

[精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会報告書の公表](#)

精神障害の労災認定の基準に関する検討をしていた「精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会」の報告書が公表され、今後、精神障害の労災認定基準が改正される。業務による心理的負荷評価表が見直された（具体的出来事に「カスタマーハラスメント」「感染症等の病気や事故の危険性が高い業務に従事」を追加）ほか、心理的負荷の強度が「強」「中」「弱」となる具体例の拡充、精神障害の悪化の業務起因性が認められる範囲の見直し、などがなされている。

[化学物質管理者テキストの公開](#)

リスクアセスメント対象物製造事業場向け化学物質管理者テキストが3月に厚生労働省のホームページに公開された。

理事会報告より

五十嵐千代(東京工科大)

2023年度 第1回(2023年4月9日開催)

審議事項より抜粋

- 2023年度の総会開催について説明があり承認された。
- 2022年度の事業報告案、決算案について担当理事より説明があり承認された。
- 生涯教育委員会、編集委員会、学術委員会の新委員について承認された。
- 専門医制度の細則の改正について労働安全衛生規則で規定される産業医被選任資格を有するすべての者の受験資格が承認された。専門医・指導医資格更新要件(学会活動)に関して全国協議会へ5年間のうち2回以上出席することが承認された。年次学会での活動実績は、5年間のうち2回以上出席する要件が加わった。
- AMED研究班における研究課題について、設定されたヘルスケアアクション(HCQ)がAMED支援小委員会で承認されたことが説明され、内容と進め方を確認した。
- 第二次の研究会改革について、研究会数の上限30の廃止、実績重視の設立要件、継続審査の厳格化、ダイバーシティ(若手、女性)を重視した活動の促進が承認された。

協議事項より抜粋

- 第95回学会(高知)の会計報告について
- 第96回学会(宇都宮)、第97回学会(広島)の準備状況について
- 第99回学会は近畿地方会、第100回学会は九州地方会が担当することについて
- 第32回全国協議会(札幌)の開催実績について
- 第33回全国協議会(甲府)の準備状況について
- 第34回全国協議会(木更津)が、企画運営委員長を宮本理事、2024年10月3-5日、テーマ「過去と未来の懸け橋に～産業保健の昨日・今日・明日～」として、かずさアカデミアホールで開催されることについて
- Journal of Occupational Health の新出版社 Oxford University Press(OUP)との契約について

報告事項

1. 正会員数:8,494人(2023年3月27日現在)
2. 産業歯科保健部会理事より部会長が安田恵理子氏(大阪歯科大学)に交代となったことが紹介された。

地方会総会報告より

中野愛子(日立製作所)

2023年5月11日開催

1. 2022年度事業報告が事務局より報告され、承認された。
2. 2022年度決算報告が事務局より報告され、武藤孝司監事による監査報告と併せて承認された。
3. 2023年度事業計画案、および予算案について、事務局より報告され、承認された。(事業報告・事業計画は関東地方会ホームページに掲載)
4. 2023年度関東地方会における地方会選出理事、幹事、監事、ニュース編集委員について事務局より報告され、承認された。

幹事会報告より

中野愛子(日立製作所)

2022年度 第4回幹事会 (2023年2月4日)

1. 2022年度第3回幹事会議事録案について、資料に基づき事務局より説明があり、承認された。
2. 2022年12月実施の地方会選出理事候補者選挙結果について谷山選挙管理委員長から報告があった。
3. 第298回例会(2022年11月26日開催)について木戸当番幹事より開催報告があった。
4. 当日開催される第299回例会について、品田当番幹事から説明があった。
5. 第300回例会について、事務局より第96回学会内で開催予定とする報告があった。
6. 第301回例会(2023年9月開催)について、岩澤当番幹事から準備状況報告があった。
7. 関東産業看護部会の帆苺幹事から、2022年12月から2023年1月にかけて開催された産業保健看護実践向上セミナーについて開催報告があった。

8. 関東産業衛生技術部会の山野幹事から、2022年12月17日に開催された第46回関東産業衛生技術部会研修会の開催報告があった。
9. 衛生管理者の集う会の對木幹事から、世話人会、交流研修会の開催報告と案内があった。
10. 産業保健東洋医学研究会の田中幹事から、2023年1月17日に開催された第5回研究会の開催報告があった。
11. 健康的な職場づくり研究会の山野幹事から、今後の活動方針について報告があった。
12. 地方会ニュースについて、山瀧編集委員長から、47号の発刊報告があった。
13. 第96回日本産業衛生学会の準備状況について、諏訪園企画運営委員長からあった。
14. 理事会報告(2022年12月14日開催)が諏訪園地方会長からあり、2023年度事業計画・予算について、国際交流事業について、全国学会・全国協議会について、など審議・協議されたと報告があった。

2023年度 第1回拡大幹事会 (2023年4月30日)

1. 2022年度第4回幹事会議事録案について事務局より説明があり承認された。
2. 2022年度事業報告・決算報告・会計監査報告があり承認された。
3. 五十嵐地方会長より、2023年度関東地方会役員および委員における幹事の任命・退任の報告があり、新幹事より挨拶があった。
4. 2023年度事業計画案・予算案について報告があり承認された。
5. 五十嵐地方会長から以下の項目について提案があり、討議のうえ承認された。幹事会運営について、地方会幹事定年制の導入(2025年度より適用)について、事務局機能のアウトソーシングについて、例会運営の今後の検討について、研究会について。
6. 第299回例会・関東産業歯科保健部会研修会について品田幹事から開催報告があった。
7. 第300回例会(2023年5月開催)について小橋幹事に代わり中野幹事長より、準備状況について報告があった。
8. 第301回例会(2023年9月9日)・第65回見学会

- (2023年9月8日)について岩澤当番幹事より準備状況について報告があった。
9. 関東産業医部会の福本幹事より、関東産業医部会研修会(2023年11月11日)の開催案内があった。
 10. 関東産業保健看護部会の帆苅幹事より、関東産業看護部会研修会(2022年10月22日)ならびに産業保健看護実践向上セミナー(2022年12月11・12月18日・2023年1月15日)の開催報告があった。
 11. 関東産業衛生技術部会の山野幹事より、産業衛生技術部会研修(2023年7月22日)の準備状況と第47回関東産業衛生技術部会研修(2023年8月)の検討について報告があった。
 12. 関東産業歯科保健部会の品田幹事より、関東産業歯科保健部会研修(2023年2月4日開催)について開催報告があった。
 13. 衛生管理者の集う会の對木幹事の代理で中野幹事長より、世話人会3回と交流会2回の開催の代理報告がされた。
 14. 多職種連携の会の能川幹事より、全国協議会での自由集会開催予定の報告があった。
 15. 健康的な職場づくり研究会の山野幹事より、研修会を今夏開催予定で準備中と報告があった。
 16. 関東地方会ニュースについて山瀧編集委員長より、関東地方会ニュース発行予定について報告があった。
 17. 第96回日本産業衛生学会準備状況が諏訪園企画運営委員長から報告があった。
 18. 五十嵐千代地方会長から、理事会報告があった。

学会等開催予定

[第301回関東地方会例会・第65回見学会](#)

日時:2023年9月8日(金)・9日(土)
会場:所沢市民文化センター(所沢市)ほか
当番幹事:岩澤聡子(防衛医大)

[第47回関東産業衛生技術部会研修会](#)

日時:2023年8月26日(土) 13:00~17:00
会場:帝京大板橋キャンパス(板橋区)・オンライン併用

[第1回健康的な職場づくり研究会研修会](#)

日時:2023年10月21日(土) 13:00~15:40
会場:オンライン開催

2023年度関東産業医部会研修会

日時:2023年11月11日(土) 午後
会場:東京慈恵医科大学 大学2号館 6階講堂
詳細は、関東地方会HPでお知らせの予定です。

[第33回日本産業衛生学会全国協議会](#)

日時:2023年10月27日(金)~29日(日)
会場:YCC県民文化ホール、山梨県立図書館(甲府市)
企画運営委員長:小林正洋(山梨県医師会)

[第97回日本産業衛生学会](#)

日時:2024年5月22日(水)~25日(土)
会場:広島国際会議場・中国新聞ビル
企画運営委員長:真鍋憲幸(三菱ケミカルグループ)

[日本産業衛生学会産業保健看護部会 基礎研修](#)

配信期間:2023年9月15日(金)~12月5日(火)
会場:オンライン(eラーニング・一部ライブ配信)

[第50回産業中毒・生物学的モニタリング研究会](#)

日時:2023年11月17日(金)・18日(土)
会場:ワイム貸会議室 神田ROOM 7A (千代田区)
開催世話人:山野優子(昭和)

[第30回日本産業精神保健学会](#)

日時:2023年8月26日(土)・27日(日)
会場:日本赤十字看護大学(渋谷区)・オンライン併用
大会長:吉川 徹(安衛研)

[日本産業保健法学会 第3回学術集会](#)

日時:2023年9月16日(土)・17日(日)
会場:大田区産業プラザPiO(大田区)・オンライン併用
大会長:林 剛司(日立製作所)

[第82回日本公衆衛生学会総会](#)

日時:2023年10月31日(火)~11月2日(木)
会場:つくば国際会議場(つくば市)ほか
学会長:田宮菜奈子(筑波大)

第23回アジア産業衛生学会(ACOH2023)

日時:2023年11月22日(水)~25日(土)

会場:韓国大邱広域市

大会長:カン・ドンムグ

第31回日本産業ストレス学会

日時:2023年12月8日(金)・9日(土)

会場:一橋講堂(千代田区)

大会長:廣川 進(法政大)、東川麻子(OHコンシェルジュ)

第94回日本衛生学会学術総会

日時:2024年3月7日(木)~9日(土)

会場:かごしま県民交流センター(鹿児島市)

大会長:堀内正久(鹿児島大)

※最新の情報は、各学会ホームページ等でご確認ください。

※掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

編集後記

初めまして。東海大学品川キャンパスの保健師の萱場と申します。2022年7月の第46号から編集委員を担当させていただいております。これまで編集作業の経験がなく、毎回、編集委員の先生方の作業を見て学ぶばかりでした。しばらくは、この状況が続きそうですが、編集作業を通して少しでも成長しようと思います。よろしくお願いたします。さて、私は今夏、大型二輪の免許にチャレンジしています。指導員から乗り方の基本を学び、毎回の課題をクリアすることがとても新鮮で、気持ちいい風に猛烈な暑さを忘れて楽しんでます。20代の頃からの夢だった大型二輪免許取得。数十年が経過し、背中を押してくれたのは、還暦を迎えた職場先輩(現役のバイク女子)からの「今やりたいことは、今やらなきゃ！」のひと言でした。来週は、いよいよ卒業検定。免許取得後、涼しい高原を走り、旨いそばを食べに行くことを計画中。皆さんも、仕事とはひと味違った新しいことにチャレンジしてみたいかがですか?(萱場)

編集後記

Apple Watchを使うようになってから2年半が過ぎた。初めは忘れがちだった充電を忘れることもなくなり、バンドを合わせても100gに満たない重さがないだけで左手にうすら寒いような欠落感がある。日々の行動さえApple Watchに言われるがままだ。Apple Watchの奏でる鈴の音で目覚め、仕事に行く時間だと言われて慌てて車に乗り込む。工作中でも「立ち上がって歩け」「マインドフルネスで落ち着け」と指示される。帰宅してからも一日の消費エネルギーや運動量の目標を達成するためにまた外へ出かける。これが親や妻あるいはお節介な主治医や産業医であれば「煩わしい」と早々にやめていたかもしれないが、この小さな機械には逆らえずに「アップルウォッチ先生」と呼び、月間目標を達成した際に表示される二次元のメダルに嬉々としている。最近AIがしばしば話題になる。健康維持のためにAIが最適な運動プログラムを考え、腕時計を介して「立て！歩け！走れ！」と命令を下してくる日も遠くないだろう。AIは尊敬すべき師となるのか、煩わしい同居人となるのか…おっと、我が師が呼んでいる。夜までまだ時間があるから運動すべきだと言う。編集後記はここまでにしよう。それでは、行ってきます。(小倉)



宇都宮駅前餃子のビーナス像

編集委員名簿

稲垣弘文、☆大久保靖司、小倉康平、萱場隆人、久保恵子、澁谷智明、谷山佳津子、照屋浩司、富永知美、中谷 敦、○能川和浩、原 美佳子、宮本俊明、◎山瀧 一、山野優子、山本健也、与五沢真吾

☆顧問 ◎編集委員長 ○副委員長 (50音順)